

押小だより

てんしんらんまん

天真爛漫



令和5年4月14日
さくら市立押上小学校
令和5年度 第1号
文責：仁平 博幸

なつかしきと恩返し

令和4年度末の定期異動により、4月1日から押上小学校長として参りました、仁平 博幸（にへい ひろゆき）と申します。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

私事で恐縮ですが、実は、私、29年前に押上小学校に教諭として赴任し、以後9年間（平成6年度～14年度）、本校でお世話になっておりました。その頃から、保護者や地域の皆様にあたたかく見守っていただき、「先生」として育てていただきました。当時はまだ若さあふれる、言い換えれば血気盛んな頃でしたので、保護者の皆様にはいろいろとご心配や気苦労をおかけしていたのだろうなと反省しています。でも、そのような私にも「先生、本当にいろいろ大変だよね。ご苦労様ね。」「子どもは楽しく学校へ行っているようでありがとうございます。」などと労いや感謝の言葉をいただいたのを今でも覚えています。（右の写真は、当時の様子です…）



このように、私を先生として育てていただいた押上小学校に20年ぶりに赴任できたことをとてもなつかしく、うれしく、また運命のようにも感じています。新任校長ですのでまだよちよち歩きで、前任の手塚校長のような学校運営はできないかもしれませんが、私なりにできることを精一杯、一生懸命、誠心誠意、押上小学校の子どもたちのために力を注いでまいります。ちょうど、20年前に育てていただいた恩返しに、目の前の子どもたちを、先生方や保護者の皆様、地域の皆様と一緒に育てていきたいと思っています。どうぞ、20年前と同様、よろしくお願いいたします。

さて、この学校便りですが、題名を「天真爛漫（てんしんらんまん）」と名付けました。「天真爛漫」とは、飾り気がなく、心に思うままのことが言動に表れ、また明るさと無邪気さのあふれ出ている様子を表す言葉です（偶然にも今放送中のNHK朝ドラも「らんまん」です）。以前勤めていた時の本校の子どもたちが本当に「天真爛漫」で、私は大好きでした。いたずらやけんかもよくして、私もよく叱っていましたが、そんなことにはへこたれず、叱られていたことを忘れたかのように「先生、遊ぼうよ！」と休み時間に一目散に外に出て行くような、いわゆる「子どもらしい」子どもたちでした。そのような押上小学校で、当時、学年便りを「天真爛漫」と名付けて出していました。裏面は、その当時の学年便り「天真爛漫」です（平成8年度、2年生を担当したときのものだと思います）。今回、新たに「天真爛漫」と名付け、学校便りを発出いたします。今も子どもたちは、キラリと光る子どもらしい面をたくさんもっています。私も教職員はそのような「天真爛漫」な子どもらしさを大切にしながら子どもたちを育てていく必要があると考えています。誤字脱字、意味不明な点があったら申し訳ありません。私も「天真爛漫」な面がありますので…

次回は、「学校教育目標」や「学校経営の理念」などについてお伝えしたいと思います。（仁平博幸）